

FRBはタカ派姿勢堅持も市場の見通しとは乖離

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① FRBはタカ派姿勢を堅持

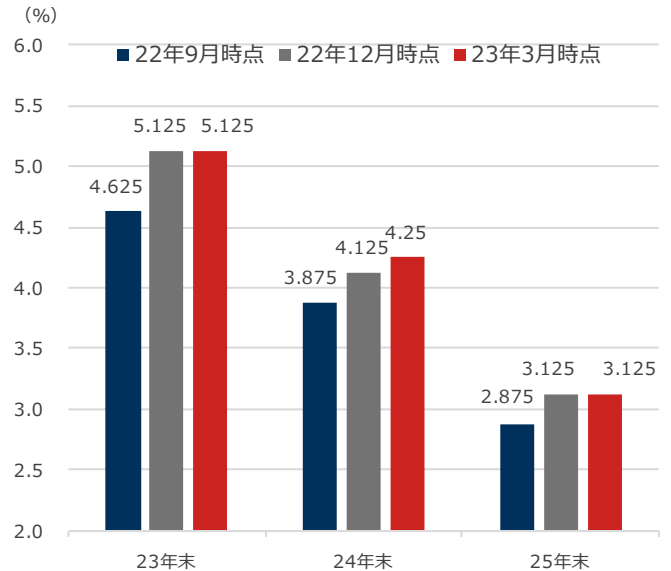
FRB（米連邦準備制度理事会）は3月21～22日に開催したFOMC（米連邦公開市場委員会）で、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を0.25%引き上げることを全会一致で決定しました。同時に発表されたFOMC参加者のFF金利見通し（中央値）は、23年末時点で5.125%と昨年12月FOMCで示された予想値と変わりませんでした。ただ、24年末時点の見通しは4.25%と前回の4.125%からさらに上昇しており（右上図）、FRBは金融不安への懸念がくすぶるなかでも、高インフレの抑制を優先する姿勢を示した形です。

ポイント② 金融不安を巡る投資家の警戒続く

記者会見でパウエル議長はFOMC参加者が年内の利下げを想定していないと述べるなど、FF金利先物が織り込む金利見通し（23年末：4.18%）との乖離が目立ち、今後こうした点が金融市場の火種となる可能性もあります。FRBが高金利政策を堅持すれば、金融機関の経営の不確実性が増すことにつながりかねないほか、今後、レバレッジドローンなど信用力の低い企業の資金調達を圧迫することも想定され、FRBの金融政策の動向には留意する必要があります（右下図）。

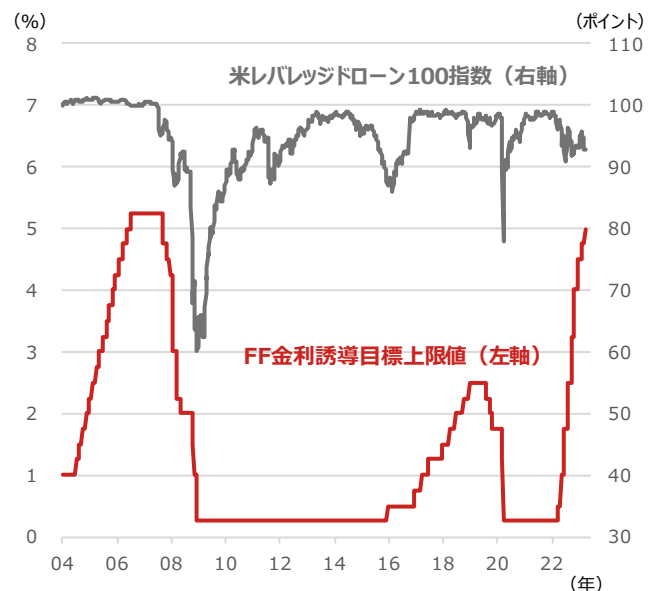
こうしたなか、イエレン米財務長官が22日、米国の銀行システムを安定させるために「全面的な」預金保険を提供することは検討していないと述べ、米銀行株が急落しました。金融不安を巡る投資家の警戒は依然根強いといえます。FRBは「インフレの抑制」と「金融システムの安定」という2つの難しい問題に取り組まなければならない、金融市場は当面値動きの荒い展開が続きそうです。

FOMC参加者金利見通しの直近3会合の比較



期間：2023年末～2025年末、年次
・金利はFF（フェデラル・ファンド）金利
・金利見通しは目標レンジ中央値
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

FF金利誘導目標上限値と米レバレッジドローン100指数



期間：2004年1月2日～2023年3月22日、週次
・米レバレッジドローン100指数はS&P/LSTA U.S. Leveraged Loan 100 Price Index（米ドルベース）を使用
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。